

第6学年 特別の教科 道徳学習指導案

1 主題名 前向きに生きる心 (D よりよく生きる喜び)

(教材名：生きることをあきらめない 出典：生きる力6【日本文教出版】)

2 目標

困難に負けず生きようとする人の姿から、希望をもって生きていこうとする意欲や自分の弱さに向き合い、人間としての強さをもってよりよく生きていこうとする態度を育てる。

3 単元計画

【学習前の児童の姿】

小学6年という発達段階は、自己と他者の違いを認識し始めるとともに、中学進学を前にして、自分の生き方について考え始める時期である。本学級の児童は、級友と協力して学校行事や日々の学習活動に前向きに取り組むことができる。一方困難に直面した際、「自分は苦手だから」と言って諦めたり、失敗の理由を「人のせい」にして済ませようとしたりする姿が見られる。レギュラーとして試合に出ることを諦めかけたものの、コーチの存在を胸に刻みもう一度自らを奮い立たせようとしているこの教材の主人公を通して、人間の弱さに共感しつつ、弱さに向き合いながら、受け入れ乗り越えていこうとする気持ちがよりよい生き方につながっていくことを感じられるようにしたい。

＜こんな教材の魅力を＞【1時間完了】

・本教材で、主人公の弘志は、怪我でメンバー落ちをする。落ち込む弘志は難病と闘う大津コーチの姿から勇気をもらい、一度は諦めたレギュラーをもう一度目指す。「諦めてしまいそうな弱い自分」を受け入れつつ、その弱さを乗り越えていくことができるのは自分自身であることに気付かせたい。「自分の可能性」や「自分の力を信じること」などの思いが弱さを克服する第一歩となることを感じさせたい。



＜こんな手だてで＞

- ・諦めかけている弘志に焦点をあてることで、もう一度挑戦しようとする弘志の気持ちの変化に気付く、コーチの姿から自身の困難を乗り越えていこうとする強さにつなげた弘志の思いに共感できるようにする。
- ・コーチの手紙を読み、「じっと考えていた」弘志の内面に迫ることで、よりよく生きることの意味を自身の言葉で理解を深め、今後の生活につながるようにする。

(1) 指導の構想

導入で本時の主題について問うことで、「生きる」ではなく、「よりよく生きる」ことの意味を児童の言葉で考えさせる。資料を活用する場面では、レギュラーに入ることができず、落ち込む弘志の後悔や悔しさに共感させることを通して、人間のもっている「弱さ」について思いをはせる。その上で、弘志がもう一度挑戦しようとするきっかけとなる大津コーチの存在に触れる。大津コーチの姿やメッセージが弘志に与えた気付きや考えの変化に目を向けさせ、何が弘志を前向きな気持ちに動かしていったのかについて話し合うことを通して、理解を深めていく。「強さ」は乗り越えた事実だけでなく、乗り越えようとする意志も強さであると感じることができるようになりたい。終末では、弱さを受け入れ、それを克服しようとしたり乗り越えようとしたりすることのよさに気付く、よりよく生きて行こうとする心情を高めることにつなげたい。

(2) 準備 挿絵 道徳ノート

(3) 学習過程

学習活動 (時間)	予想される児童の反応			※教師の支援
1 本時考える内容を共有する。 (5)	「前向きに生きる」とはどういう生き方だろう			※主題に対する考えをもつことで、終末で振り返りを行い時に思考の深まりを実感することができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> よく分からないけれど、失敗したから怒られるんじゃないかなって思うことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰かのせいにしないでこれからどうしようかなって考えながら生きることかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 何が悪かったのかなって考えながら生きることだと思う。 できない自分に負けずにもっとよくしようと生きること。 	
2 弘志の心情の動きを考える。 (15)	弘志はどうして少しでも早くこの場から離れたかったのだろう			※コーチの余りの大きな変わりように不安になったりとまどったりしている弘志の気持ちに共感させる。
	<ul style="list-style-type: none"> 特にコーチと話をしたいこともないし、会うと思っていないから。 思いがけず声をかけられたから。 	<ul style="list-style-type: none"> 調子のよくないコーチの姿を見たくなくなって気持ちが強かったんだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> レギュラーになれていない自分を見られて恥ずかしいと思ったからだと思う。 	
	コーチの小さな声に思わず涙した弘志にはどんな思いが込み上げたのだろう			※悔しさや悲しさなどを感じる弘志の心情に触れる際に、発言を分類して板書することで、弘志の心の動きを多面的に捉えることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> レギュラーになれなかったことを思い出して、悲しい気持ちになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本当は選ばれたことを報告したかったのにそれができず、どうしたらよいのかが分からない。 コーチは病気になっても自分のことを気にしていたことに気付いてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がレギュラーになってコーチに元気を出してもらいたかったのに、それができなくて悔しい。 動くことも大変なのに自分の名前を呼んでくれて、励まされた気持ち。 	
3 手紙を読む弘志の心情を考える。 (20)	弘志は大津コーチの手紙を読んでどんなことを考えているのだろう			※手紙のイラストを提示するとともに、「おれも生きる」と書かれた手紙に、コーチはどんな思いを込めたのだろう」という補助発問を用意することで、手紙に込めたコーチの思いが弘志にどのような影響を与えたのか考えることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を読んで、もうちょっとがんばってみようかなって気持ちになっている。 やっぱりレギュラーになりたいって思っているんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分よりも大変なコーチがあきめないのだから、自分もあきらめずにもう一度やってみようかなって、やる気が出てきた感じがする。 怪我したことを理由にやめてしまうのはもったいないかもしれないと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の弱さに気付いて、コーチを元気づけるために、諦めずにレギュラーを目指そうという前向きな気持ちに変わってきたと思う。 もう一度レギュラーを目指して努力する姿を見せることでコーチにもらった元気をぼくが返したい。 	
4 振り返り (5)	「前向きに生きる」とはどういう生き方だろう			※「前向きに生きる」というテーマを再度問い直すことで、思考の深まりや変容を意識することができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> すぐに諦めないでがんばること。 	<ul style="list-style-type: none"> 上手いかわないこともあるけれど、それに負けずにチャレンジする生き方だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗した時にそこでやめたら何も残らないから、自分にできることを考えるようにしたい。 	

(4) 評価

- ・大津コーチからの手紙を見てじっと考えた「ぼく」の思いについて、前向きに生きるという視点で考えることができたか。(道徳ノート・発言)
- ・前向きに生きている人たちの生き方について考え、自分もまた、前向きに生きていこうとする心情を高めることができたか。(道徳ノート・発言)